



グループ別公開授業研究会について～竹林地先生より～

本校のグループ研を参観された竹林地先生から次のような指導をいただきました。今後の参考にしていきたいと思います。

① メンバーは5、6名が適当

授業後の事後研では、話し合いのゴールに向かって、それぞれの思いをみんなが出し合うようにすることが重要です。限られた時間を有効に使いつつ、参加者が意見を出し合うには、人数が多過ぎてても少な過ぎててもいけません。5、6名が妥当でしょうね。

② 意見を共有するための工夫

オーダー用紙を拡大印刷するのは良いと思いますが、机の上に平置きにすると、皆が同じように用紙を見ることができません。そのため、用紙はホワイトボードに貼るのが良いです。また、せっかく付箋を使っても、字が薄い、小さい等だと貴重な情報を共有することが困難になります。できればサインペン等を使って見えやすいようにすることも大事なポイントです。話し合いの手法として、「ワールドカフェ」というやり方も参考になりますよ。

③ 具体性のあるオーダーにする

今年、この取組を始められて様々なオーダーがあったと思います。いくら授業を見た後でも、抽象的なオーダーだと議論が拡散します。具体的な点について話し合ったほうが深まりがあります。実際にやってみて色々な気づきがあると思いますので、どんなオーダーが良いのかは、積み重ねながら、ブラッシュアップしていけたら良いと思います。

「教育は人なり～不易と流行の狭間で～」(中西副校長先生より)

今年も本当にたくさんの授業を公開していただきありがとうございました。感想等思いつくままにまとめてみました。

《よかったこと》

- ・授業中の子どもたちの真剣な学びの姿、達成感や満足感を共有できたこと
- ・先生方の心のこもった授業から、子どもたちが着実に力や自信をつけていること
- ・授業づくりをとおして、ともに授業を行うグループの先生方の絆が深まり、素敵なチームになっていること

《これからに向けて》

- ・本校の生活単元学習や作業学習、日常生活の指導について整理が必要
⇒年間指導計画、他教科等との関連、単元と単元のつながり、TTのあり方 等々
- ・学部独自性と白兎の一貫性ある教育の整理が必要
⇒互いに授業を見合って感じたことを、ぜひ自学部に取り入れてほしいと思います。

最後に、事後の研究会で語り合ったことを振り返る中で、「子どもに学ぶ」姿勢を持ちたいと思います。子どもと真摯に向き合うと同時に、時にはちょっと俯瞰してみることも。そうすると、子どもたちの方からたくさんのことを発信していることに気づかされます。キーワード「主体的・対話的で深い学び」として子どもたちにとって意味ある学びを創造するのは大前提ですが、子どもたちは人から学んでいるということ、私たちも子どもたちが返してくる多くのことに学びを得ているということをお互にしたいと考えます。

先生方お一人お一人がしっかりと子どもに向き合い、魅力ある人として、これからも授業づくりを楽しんでいただければ幸いです。

(中西 美千代)